

優秀賞 [高校生の部]

地元の金沢を例に挙げ、体験に基づく説得力のある論旨を展開。自分の力でできる地方活性化のアイデアを述べるポジティブな姿勢が好評でした。

NRI学生小論文コンテスト2010
日本から未来を提案しよう！
「世界のなかで日本の魅力を高めるには」

入賞作品



地方都市の魅力を世界へ

——新たな日本の可能性

石川県立金沢二水高等学校2年

上田 奈々絵

うえだ ななえ

今日、地方都市の人口は減少し、大都市に集中している¹⁾。しかし私は、日本が世界の中で魅力を高めるには地方都市の力が不可欠だと思う。地方都市はさまざまな魅力を内包しているのだ。

例に私の住んでいる石川県金沢市を挙げてみよう。金沢市には茶屋街や日本三名園の一つである兼六園など、独特な歴史に培われた数多くの建造物が存在している。また歴史的建築物のほかに、日本経済新聞の公立美術館ランキングで3位に入賞している²⁾ 金沢21世紀美術館などの文化施設は全国的に有名だ。金沢市はそれらの施設を強みに観

光客数を年々増加させている。

その結果、兼六園を始め県内の12カ所がフランスのミシュランガイドで紹介され、その年の石川県の外国人宿泊客数は前年に比べ3万人ほど増加した³⁾。実際に街を歩いていると、外国からのツアー客を観光地で見かけることが多くなっていることを実感する。

それに加え、金沢市には外国人観光客向けのボランティアガイドがいる。個人の旅行者でも、このサービスを利用すれば言葉の壁に悩まされることなく金沢を観光できるのだ。名所を効率的に巡れるだけでなく、安心して旅行できるということは、多くのリピーターを生むことができるだろう。異国の地か

ら来た旅行者は不安と期待が入り混じっている。私は以前外国へ旅行に行ったとき、現地の人々が歓迎してくれたおかげでそんな不安が払拭され、この国のことをもっと知りたいと感じたことを覚えている。外国の人々を温かく出迎えることは、その地域や日本への好印象につながるだけでなく、相互理解のきっかけにもなりうるのだ。

そのほかにも、石川県は全県を挙げて「ジャパンテント」という試みをしている。これは日本中に滞在している留学生を石川県に招待する企画で、今年で23回目を迎えた。招待された留学生は県内各地でホームステイをし、日本の文化を学んで帰っていく。ふだんは学校で学業に勤しむ留学生が日本の新たな魅力を見出すことができるのだから、これは日本や石川県への見解を深めるのにとっても効果的な方法だと思う。

ポップカルチャーと地方都市の融合で注目を集めることもできる。例えば「クレヨンしんちゃん」の主人公達の住んでいるところは春日部市であるように、近年のアニメや漫画はしばしば実在する都市を舞台にしている。いわゆるオタクと呼ばれる人々はそれらの場所を「聖地」と称し、そこを訪ねてアニメの世界を疑似体験することは「聖地巡礼」と呼ばれている。近年ネット上のブログや掲示板には聖地巡礼のレポートが盛んに書き込まれている。このことから分かるように、人気作品

の聖地になった場所にはたくさんの人が訪れているのだ。人気作品の連載が終わっても、多くの人が聖地に継続的に訪れる。

日本の独特なサブカルチャーには、世界中にファンがいる。熱狂的なファンでなくとも、好きな作品が実在する土地を舞台にしていると知ったら、多くのファンはその土地に興味や憧れを持つだろう。実際、外国人のファンが聖地に来ることもありうるだろう。だから私はこれからの地方都市は映画やドラマのロケ地の誘致だけでなく、サブカルチャーの拠点となるために積極的になる必要が出てくると思う。作品世界と現実をリンクさせることによって、都市の新たな魅力を引き出すことができるのだ。

私はこれらのことから、今の日本の都市には「アピール力」が必要だと考える。日本にはその土地独特な祭りや建築、風土料理が数多く残っている。特に地方都市は高層ビルに囲まれている都会に比べ、日本の昔ながらの文化を色濃く残している。それに加え英語で日本版のミシュランガイドが発行されたことから分かるように、日本独自のライフスタイルや文化に興味を持っている人はたくさん居るのだ。これは大きなチャンスである。これを機に私たちは住んでいる土地の魅力を存分にアピールするべきだ。

そのために有効な手段の一つとして、まずインターネットが挙げられる。例えば、市の

観光用のホームページで、いくつかの外国語でツイッターをしてみてもどうだろうか。著名な観光地での桜の見ごろや文化施設の企画展示の情報などをツイートすれば、日本への親近感が湧き、世界と日本の地域との距離はぐっと縮まる。頻繁な更新でその地域のリアルタイムでの動向が分かれば、世界中の人々の興味はより深まるだろう。

観光客を出迎えるための整備も大切だ。各国の言葉で書かれた観光マップを随所に配置しても、道端にゴミが落ちていたりトイレが悪臭を放っていたりすると悪印象を与えてしまう。「どこよりも清潔な街」であることはその地域に対する好印象を与えるために重要なことである。

しかし私は、その土地の魅力を高めるために一番重要なことは、「おもてなしの心」だと思う。時として旅した土地の印象は特色ある観光地以上に、人々の人柄に左右される。現地の人にどのくらい快く接してもらえるかで、旅の思い出は良くも悪くもなるのだ。そしてその土地に住む一人ひとりがおもてなしの心を持つことによって、交通やゴミのマナーは自ずと良くなるはずだ。それは住人である私達の姿勢が、土地の魅力に貢献することができることを意味する。また、ゴミ拾いやイベント時の交通整理などのボランティアは、その心を学ぶために有効な方法であるように思う。日本人の繊細な心を生かしたおもてなし

をすることができれば、旅の思い出は良いものになり、土地に対して魅力を感じることができるだろう。

北陸三県の祭りだけを見ても、富山のおわら風の盆、石川の能登キリコ祭り、福井の祇園祭など特色あるさまざまな祭りを目にするができるが、世界中の人々に魅力を感じてもらうには至っていないと思う。そこで必要になってくるのはインパクトあるアピール力である。

日本の都市は魅力に溢れている。気候に合わせた住居は地域によって大きく異なる形態になるし、豊富な漁場からは色々な海の幸がとれる。ポップカルチャーの影響を多分に受けたゴスロリ・ロリータファッションは他に類を見ないほどに個性的だ。日本は衣・食・住のどれをとっても面白いのだ。

今、その日本の元気を担うのは個性的で独特な歴史を持った地方都市だと思う。私達自身はその魅力を再発見し、アピールすれば、日本の魅力をより高めることができるのだ。

文中注

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所
<http://www.ipss.go.jp/>
- 2) 日本経済新聞2006年(平成18年)10月14日朝刊
- 3) いしかわ統計指標ランド
<http://toukei.pref.ishikawa.jp/index.asp>